

八王子ITネットワーク 8月例会メモ

日時：平成30年8月16日（木） 18：30～20：00 参加人数11名

場所：サイバーシルクロード八王子

1.RPAの概要について(株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 山本氏)

- RPAとは、事務所内で行われているホワイトカラー業務において、従来人間が行っている固定の定型業務をロボットに置き換えてPC又はサーバーで行う概念である。
- 現時点ではルールエンジンや認識・記録技術を備えたソフトウェアロボットが主流だが、将来的にはAIと連携し人の判断無く自動化を実現すると考えられている。
- 政府主導の働き方改革の推進に合わせた業務効率化、少子高齢化に伴う労働力不足などの対応として、RPAに注目が集まっている。
- 記録型RPAツールは、人が行っていたPCでの作業をそのまま記録し、忠実に再現することで、既存の業務プロセスを改善することなく作業の自動が可能である。
- 具体的なステップとして①PC操作をシナリオとして記録②繰り返し、分岐条件の設定などシナリオを編集③シナリオの実行の3ステップとなる。
- 人間の手で入力するスピードの約5倍となり、自動で行うので人件費を圧縮する事ができる。
- RPAが向く作業として、大量作業・反復作業・単純作業・ルールとして定義できる作業である。
- 適用処理としてDB/Webサイトの情報収集や画面・帳票の情報読込やシステム間連携のデータ入力などである。
- 対象業務例としては、請求書処理・納品書作成・経費精算・人事情報修正・残業時間管理・申込書入力・融資個人審査・融資条件の確認など挙げられる。
- RPAが向いていない作業として、①ルールと順序が明確に決まっていない作業②年1回のほどの業務③処理パターンが多いなどが挙げられる。
- PRAの活用が進むと思われる業務として、経理業務・購買業務・人事業務、営業事務・金融業・不動産業・小売業・通信業などが挙げられる。
- RPAの導入のアプローチとしては、ボトムアップアプローチとトップダウンアプローチがある。
- ボトムアップアプローチは、各職場で実施し、調査・業務改善・実証・展開の流れになり、導入には、約2ヶ月～3ヵ月となる。導入が容易で小さい効果がすぐに出るが、管理体制が取りづらくなる。
- トップダウンアプローチは会社として統制をとりながら、調査・業務改善・実証・展開の流れになり、導入には、年単位となる。管理体制が取りやすいが、初期費用が高く導

入に時間がかかる。

- RPA ツールにはデスクトップ型とサーバー型の2つに大別される。
- デスクトップ（分散管理）型はパソコン1台毎にロボットをインストールし、各利用者がロボットを利用と管理をする。
- 管理レベルは各利用者であり、導入が容易且つ安価で効果がすぐに得られるが、ロボット稼働時はPCで作業が出来なくなる。
- サーバー（集中管理）型は、サーバーに複数ロボットを配置し集中管理する事ができ、IT管理者が管理する。
- 全体としての内部統制がとりやすく、業務全体を自動化や多重実行が出来る一方で、初期投資が高くスクリプト作成などの知識が必要である。
- RPAを導入するには、現状業務の全体の流れを可視化し、業務フロー単位に現状の仕事が可視化する必要があり、業務の洗い出しや事前準備が必要である。

2. 八王子市情報化計画（平成30年度（2018年度）～平成34年度（2022年度） （八王子市役所 行財政改革部情報管理課長 中嶋氏）

- 八王子市基本計画「みんなで紡ぐ幸せ 八王子ビジョン 2022 活力ある魅力あふれるまちへ（2018基本計画訂正版）」に合わせて策定。
- 基本方針として3つ掲げており、①ICTを活用した行政サービスの向上②ICTを活用した行政運営の効果・効率性の向上③情報セキュリティ対策の強化になる。

※八王子市情報化計画の詳細に関しては、下記のURLでご参照ください。

<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/001/001/005/002/p023637.html>